

福總新聞

（毎月十五日）一回
定價一紙十錢 壹ヶ月廿錢
廣告料 報費別五錢
發行所 福總新聞社
市島 三
福島縣平町町十四

緊縮政策は 平小鐵道に崇る

地方民の悲觀？

平、小名濱間鐵道敷設計劃は昭々なりしを我が磐城地方の地主和五年度から九年度迄五ヶ年間は非常に恐怖を感じ本年度は意の繼續事業として起工の豫定で外なる天候に支配せられ意外なあつたが、濱口緊縮内閣の方針の減収を見たので、更に其惹起で中止となるではあるまいかとを恐れて居つた矢先に突然石城版業（山崎家）の山崎勇治氏の長女スミ子察せられてゐた折柄、鐵道省で郡玉川村の小作米輕減運動は各氏は永らく腎臓病で就床中、手は十五日午後一時から首腦部會町村に感染し殊に隣接せる小名濱間鐵道敷設計劃に起る模様である、小名濱間午前四時遂に逝去された、享年止する事と爲し更に大藏省の承町に於ける百餘町歩の水田は近五十三歳、實に惜むべき主婦で認を得て是れを聞議に於て最後年にならぬ減収で一反歩二俵、甚あつた、記者は憤りて哀悼の敬の決定を見るならんと、即ち平だしきは一俵に過ぎない様な有意を表すものである。葬式は小線の工事はライオン内閣の消滅で、農家では困り切つてゐる長橋町性源寺に於て施行せられ極政策の犠牲となつて工事中止尙ほ石城郡勿來町では最近一部會葬者數百名にして實に盛大な運命に陥つた。

平町現在人口

昨年より増加

平町の十月一日現在の現住者三萬七千九百九十七人内男が一萬三千六百二人昨年より人口九百八十八人、戸數四十三戸の増加を見た

勿來の地主 小作米輕減

地主對小作人の爭議は他縣に旺

各縣會座を締りて 淺間し政黨呪縛

紙屋治兵衛は戀成に魂ぬけてトボトボと河庄の店頭に迂路ついた、府縣會議員は黨派故に人間性を引抜かれて狂犬の如く議場に咆吼し囓合を演じて府縣民の代表も府縣の福利も忘れて中央本部指揮の儘に活躍するのである、そこには地方自治の何者も考へられてをらぬのである、斯して大切な一年の計については何事をも議することなくして何等府縣民に申譯するでもなく、大きな面をしてゐるのである

山崎家の不幸

平町

の素封家たる山崎家（二丁目活版業）山崎勇治氏の長女スミ子氏は永らく腎臓病で就床中、手は十五日午後一時から首腦部會町村に感染し殊に隣接せる小名濱間鐵道敷設計劃に起る模様である、小名濱間午前四時遂に逝去された、享年止する事と爲し更に大藏省の承町に於ける百餘町歩の水田は近五十三歳、實に惜むべき主婦で認を得て是れを聞議に於て最後年にならぬ減収で一反歩二俵、甚あつた、記者は憤りて哀悼の敬の決定を見るならんと、即ち平だしきは一俵に過ぎない様な有意を表すものである。葬式は小線の工事はライオン内閣の消滅で、農家では困り切つてゐる長橋町性源寺に於て施行せられ極政策の犠牲となつて工事中止尙ほ石城郡勿來町では最近一部會葬者數百名にして實に盛大な運命に陥つた。

四聞八觀

▲樞府の老人等を煽て陰謀の府と化して暗闘なる倒閣を企てた。天下の公黨の醜体は何ぞぞ。
▲如何に輕薄なる國民と雖も不規律な太鼓雜音化せる笛吹けと決して踊るものではない。
▲時は昭和も四年の十二月である、國民は國家に忠實なる政黨に共鳴するのみ。
▲綱紀肅正の公黨たる民政黨からも遂に看板を撤回せんとする疑獄の人を産む。
▲公黨として十大政策も或る意味に於て、畫餅に歸せんか憐れむものは自信なき辻商人に等しむるべし。
▲解禁後の産業合理化、舉國的に實現せたい。
▲併し合理化の根本精神は奉仕心を基調とする事を忘れてはならぬ。
▲小利を殺して、國民的大利を生かすこと、此の決意如何

運賃配達無料
ガス風呂
巴風呂
東京神田區
大坂四橋電氣會社

店理代
店商屋釜

て成行に委せて置ける問題ではない事柄である。
府縣會議員諸君、諸君は諸君の屬する政黨の面目も大事で

平町會計検査

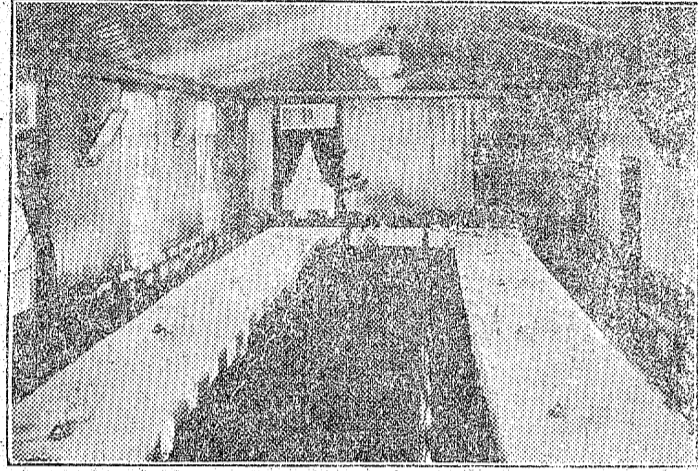
平町會計検査員萩原義雄、青沼録太郎、坂本隆藏、佐々木龍若の四氏は十六日例年の如く平町の會計検査を行つた。

醒めねばならぬ、縣民の代表として選ばるゝ事を要求して而もその願望を果たし、今この議場にある事を思ひ出して貰ひたい、黨派のみあつて府なものに改めねば府縣のため何等の役に立たないのである、寧ろ在つて益なき害物なのである。
ある縣では縣民大會を以て「あつて益なき害物なるが故に即時解散を要求する」と決議した、併し解散して改選したからが、この黨人達が依然政黨呪縛にかゝつてゐるとしたら、矢張りこの狂亂を繰返すであらう、嗚呼政黨禍、府縣民は是非にこの黨人達に鎮靜劑の服用を求め逆上意識から醒めて少々なりとも地方自治を思はしめねばならぬ。
平五 山野邊藥局

好評湧く如き 丸昌ホルールの隆盛

華美なる交際界も今は節約動機 丸昌軒獨占的の西洋料理は平ツの下に、緊縮から極端な緊縮の 兎をして大層舌を巻きて賞揚す時代と化して仕舞ふた、去れど 節約の上にも節約の儀式は行は ねばならぬは人類生活の上に於 て唯一の道であらう。

爽快なる気分を漂ひ 而も簡単にして美味 なる西洋料理の十二 分の準備を有するも のは、即ち吾人等が 最も大なる聲を以て 満天下に其眞價を賞 讃し、且つ照會する は、最近開業せる平 町南町丸昌事吉田弘 昌氏の經營に係る丸 昌ホルールである、記 者は開業式の祝日に 招待の末席を汚して 其實感を書き記すのみ であるが……



(部一のルホ軒昌丸)

建物の内容即ちモダ ンセクション式で、緑色の顔料 を以て美化し、五百燭の電燈は 燦然として照す、加ふる椅子丹 卓子の如きは何とも形容し得ぬ 爽快なる感に打たる、ものであ

レシーバー

▲平町の家主諸君も今は自覺し て家賃を引下げる事にして下 さい。(後家の女)

▲昔は人の悪いはイワキの平な そうでした、昭和の今日は道 が悪くて泥田の中を通行する 様で老人や子供は歩行困難の 姿だ、何とか當局の一考を 煩す。(一學生)

▲磐城に小作争議が起きぬと輕

一寸道傍に夜臺を置いたのが 悪いってボリサン威張つたね 然し道路狭廣に依つて取締り も多少加減して呉れ給ひ。(ソバヤ)

▲自動車の速度と左側通行を勵 行するのでせうが、スピード は規定以上、右側通行然かも 泥除けなしと來ては無人の街 を走る感だね、當局の取締り は勿論である、縣組合警務支 部幹部諸君並に運轉手諸君の 反省を促す(徳心涵養居士)

▲或る〇〇さん身は、〇〇であ りながら後家の〇〇詣りは一 寸御氣を付けてね御通ひ遊ば せ、人の眼はね、仲々なもの です。(隣の娘)

▲平町役場に一言を呈す、重要 な場所共同便所を建設せよ 如何なる理由の下に聚樂館傍

世界的發明せる 坐薬 美神丸 其偉効は一驚の外なし 地方代理店 山野邊薬局 平町五丁目

片づけてゐた地主連も玉川 渡邊の兩村に三割値下の運動 が惹起したことを輕視出來ま ない。時代の流れに逆行するな 日本土地問題は今や全國的 に蕭條する小作問題を通過して 變革されるのだ。(一無産者)

▲緊縮政策の實施と申せど天候 迄も緊縮して松ヶ岡の梅も早 咲くとの由、花見と御正月の 兩方だ。(一納豆)

▲僕は夜鷹ソバだ、去る夜

是廢止したのか、不潔非衛生 的の平町に退化せしむるのか (一店員)

▲去る八日木村代議士のドイツ 歸朝談は仲々振つて居つたね 然し醫師として學者的觀察眼 土産談なきを寂寞に感じ ましたね、唯、盛會であつた のを喜ぶのみであります(少 壯政治家)

▲或る商店では小店員の〇〇す ると評判ですが、サイそれぞ れでせう。(小店員)

▲或る藝者、先日〇〇〇〇で、〇 したでも〇〇したと随分であ りましたとの評判仲田町生

▲停車場で切符を買ふのに左か らと整列して待つて居ると途 中から右口に入る馬鹿もある 警手御苦勞でも整理して欲し いと思ひます。(振カネ生)

例年の通り

- ▼新年エハガキ
- ▼文字ハガキ
- ▼カレンジャー
- ▼カルタトランプ
- ▼常用日記
- ▼懷中日記

平町四丁目(電話三三四・九〇五番)

マルトモ 柴田書店

絶好の御買ひ時

十二月十三日ヨリ廿九日マデ十七日間

歳暮藏拂半額割戻大賣出し

家具と漆器

本丸ほん

平町三丁目 電話三五九番

平町五丁目

佐藤齒科醫院

齒科醫學士 佐藤 武之

平四丁目八番地

萬屋貨物自動車運輸部

果實問屋營業人 萬屋

電話二七三番

平町(農工銀行支店脇通り)

熱田齒科醫院

日本齒科醫學士

神谷齒科醫院

神谷辰夫

平町研町

宴會御料理 一の井

平町四丁目(電話一六七番)

平町田町(電話五二三番)

高久病院

醫學士 高久 忠

新瀨醫學士 赤羽 清

藥劑士 佐竹 菊雄

内科小兒科 外科花柳病科

耳鼻咽喉科 レントゲン科

共濟會 各科專門

平町南町

耳鼻喉科	醫學士 井上 俊次
產婦科	醫學士 渡部 貞助
外科	醫學士 松枝 茂
內科	醫學士 氏重 次介
皮膚科	醫學士 桂 家重
眼科	醫學士 西波 林
耳鼻喉科	醫學士 藤波 陸藏
皮膚科	醫學士 小中 西波
外科	醫學士 吉本 熊孝
皮膚科	醫學士 岡本 英平
皮膚科	醫學士 澤本 孝
皮膚科	醫學士 岡本 孝

衛生試驗所 醫學士 岡本 孝

本院醫事法制醫士 岡本 孝

本院主事 賀岡 澤

衛生試驗所、病氣相談所、治療所、共濟病院(内)

共濟病院は皆さんの病院であります、御氣付のことは御注意を願ひます。

平町南町 電話六四二番

入院自便アリ 看護婦見習募集